

豊玉町漁協定置網漁業ビジネスモデル計画

【策定：豊玉町漁協定置網漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

背景

対馬市において、定置網漁業は一般漁業における総水揚量の約15%（2,537t）を占める主要な漁業の一つであり、地域における雇用の場としても大きな役割を果たしている。

標記ビジネスモデルを実践する経営体は、ケンサキイカの水揚が中心で、水揚が魚群の回遊に左右され、年によって好不漁がある。そこで、安定した経営を維持していくためには、定置網の生産設備の増設や加工・流通への取組による収益性の高いビジネスモデルを確立する必要がある。

課題



1.生産性の向上



2.付加価値の向上



3.雇用拡大と改善

- ・潮流が速く年間で3ヶ月間しか操業できない漁場があり、操業機会を失っている。
- ・漁獲物は鮮魚出荷中心である。
- ・小型のマアジ等は安価な餌料用として出荷している。
- ・定置網増設や加工等に対応した雇用を確保するとともに、就労環境の改善が必要である。

取組の方向性

「底層定置網の増設による生産性の向上」「活魚出荷の拡大や末・低利用魚の加工」「雇用の確保・雇用条件の改善」等を実施し、収益性の高い雇用型漁業のモデル経営体を目指す。

計画内容

①底層定置網の導入

- ・速い潮流に対応した底層定置網の導入による周年操業
⇒水揚量16%増加

②蓄養筏の増設

- ・メジナやイシダイ等の活魚出荷の開始
⇒活魚取扱量8t

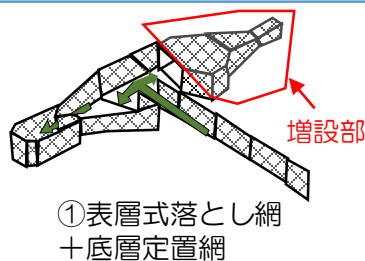
③末・低利用魚の加工

- ・地域商社と連携したマアジ等の末・低利用魚を用いたすり身加工や販売等
⇒加工品の販売による収益性向上

④雇用の確保・雇用条件の改善

- ・経営の多角化等に伴う雇用者3名増加
- ・給与など待遇を改善して従業員の定着率向上

※①で県支援事業を活用予定

①表層式落とし網
+底層定置網豊玉町
廻漁場

②蓄養筏の増設



③すり身の製造

～地域を牽引するビジネスモデルへ～

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 雇用の確保と労働環境改善

KPI

(重要成果指標)

	基準年(直近3カ年平均)	⇒	目標年(平成32年)
○付加生産額 <small>(営業利益・人件費・減価償却費)</small>	29,288千円	⇒	39,488千円
○雇用者数	5名(0名)※1	⇒	8名(2名)※1
○賃金	2,407千円/年※2	⇒	2,527千円/年※2

※1()はパート従業員数 ※2 定期昇給(従来雇用者1名の平均値)